

枇杷の植生と土壤の理学的性質に関する研究 (第1報)

優良園地の理学的性について

浜口克巳・松村久雄・池田正之

(長崎縣農業試験場大村分場)

土壤の理学的性質と枇杷の生育、収量、品質との関係を明らかにするため、1952～1955年迄3ヶ年間、生産地茂木町に於いて、安山岩及結晶片岩土壤につき、夫々優良園、不良園を選定し、森田氏等の方法に依

り、深さ15, 30, 60 ㎝の孔隙量、含水量、含空気量、置換酸度を測定調査した。その結果は全孔隙量は結晶片岩土壤よりも安山岩土壤が僅かに高く、結晶片岩土壤では15 cm で優良園が不良園よりもやや高く、そ

の他の深さでは土壌別，園の良否別で差は認められない。含水量は優良園では各深さとも土壌による差はないが，不良園では安山岩土壌が高く，一般に深くなる程含水量は高くなっている。含空気量は優良園では土壌別の差はないが，不良園では結晶片岩の方が非常に高くなっている。従つて枇杷園の良否は土壌の種類に

依り異なり，含水量及び含空気量より見れば，結晶片岩土壌は水分に比し空気含量高く，乾燥し易く，安山岩土壌は空気含量よりも水分含量多く，過湿に陥り易く，樹の発育，収量に悪影響をもたらすものと思われる。